

旅は真実をおしえる

人は何かを求めて旅に出ます。

私にとって意味ある旅とは、国内にいたのでは想像もできなかった外国社会の真実を突きつけ、自分の生き方、考え方に反省をせまるものです。私は今まで何回も、そういう経験をしましたが、そういう旅で決定的なのは、人との出会いです。特に貴重なのは、知識人、学生、芸術家など、自分の意見をもっていて、議論できる人との出会いです。30数年前ワルシャワで、こんな経験をしたことがあります。

映画を見終わって、夜おそく真暗な道を歩いていると、いきなり「サムライ」と呼び止められました。貧しい身なりの、四、五人の若者グループでした。「日本人だろう、すこし話さないか」と誘われたのです。そして、立派なホテルのバーに連れて行かれました。彼らには不似合いな場所です。おごらす気だなど、直感しました。

われわれの会話はロシア語だったので、「大学の授業もロシア語か」と、聞いたのがいけませんでした。「ポーランドとロシアの文化程度の差を知らないのか」と、コペルニクスを生んだポーランドの文化の高さを誇り、それに比べ、ロシア人がいかに教養のない野蛮人であるかを力説し、ポーランドがロシアに支配されている不当を、大声のロシア語でまくし立てたのです。これには驚きました。何しろ当時は、事実上の占領下です。たまたまそこには、ロシア人はいませんでした、近くに警察はいたはずですが、恐れる様子はありませんでした。ポーランドのロシア人に対する深層心理と、恐れを知らないその表現を聞いて、この状態が20年も続くはずはない、と確信しました。

チェコ、ハンガリーについても、ハッとする意見が聞きましたが、その後の東欧の歴史は、すべて彼らが言った通りに進みました。私にとってこの晩は、別室に呼ばれて、試験問題の正解を、全部教えてもらったような一晩でした。帰りに私が払おうとしたら、それは絶対ダメだといひ、三人で財布を合わせ、ポケットをひっくり返して支払っていた姿が忘れられません。

これを真実というなら、当時、このような真実を伝えてくれる本はありませんでした。やはり自分で、その社会の滝つぼに落ちこんで、否応なく、真実を体験してしまうしかありません。これが、私が理想とする旅ですが、それには、目的がはっきりしていて、スケジュールがきちりしている旅では、ダメだと思います。出発前に想定したことを、確認するだけの旅になるでしょう。

もし、仕事や計画にしばられず、自由な気持ちで一カ月旅をしたら、きっと今まで知られていなかった真実に出会えると思います。私は定年後、人生の最終コースに入る前、まだ体力と気力が十分あるうちに、もう一度、このような旅をしたいと思っていました。

テニ 仲間の田中さんも、同じ考えなので、二人で行こうということになりました。行く先としては、日本人旅行者が殆どいないところ、歴史遺産の豊富なおとろ、現地の人と意味のある話ができるおとろということ、相談の結果、クロアチアに決まりました。理由は、景色と歴史遺産です。期間はゆっくりとって一カ月としました。